

荒井勝彦先生退職記念号によせて

経済学部長・経済学会長 細 江 守 紀

2014年3月に荒井勝彦先生は本学経済学部を退職されました。この間、荒井先生は本学、本学部への多大なご貢献をいただきました。この度、ご退職を記念して『経済学論集』の特別号を編集することにいたしました。ご寄稿いただきました多くの先生方、また、編集に携わられた先生方には心より御礼申し上げます。

荒井先生は1996年4月に熊本大学より本学経済学部にて労働経済学担当教授として赴任されました。赴任後は大学の様々な役職を歴任され、大学の発展に寄与されました。とくに2002年から2期にわたって教学部長に就任され、また、2010年から2012年までは学生部長を務められました。

荒井先生と初めてお会いしたのは随分昔のことで、おそらく熊本大学法文学部に赴任されていた時分で、西日本理論経済学会で報告されたときでした。失業理論におけるレイオフの問題を検討された先端的な優れた発表内容で、快活にお話をされていた印象があります。それ以来学会でお会いした折に挨拶する程度のおつきあいでしたが、その学会が企画した「現代経済学のコア」シリーズの『マクロ経済学』で執筆をいただいたこともありました。幾星霜を経て、私自身が本学に赴任させていただくことになりました2008年には荒井先生は経済学部の経済学科長をされており、就任にあたって大変お世話になり、今回、ご退職記念号の挨拶文を書くご縁となりました。

荒井先生のご専門は労働経済学であり、人口移動と所得格差の問題や、女性、若年層の就業問題へのご貢献をされ、最近では、ワークシェアリングやワークバランスの問題を研究されました。また、熊本県の労働に関する研究として『変容する熊本の労働』を出版されました。これは、主に1980年代半ば以降の熊本県に起こった労働経済の状況変化や労働市場の構造変化に焦点をあわせて分析されたものです。2013年にはこれまでの研究を集大成された『現代の労働経済学』を上梓されました。その「はしがき」にお書きになっていますが、先生は学生部長のうちに体調を崩され不自由な生活を余儀なくされました。それにも拘わらず、リハビリの中でこのような大部の労作を書き上げられたことには先生の研究者魂を見せつけられたようにただただ感服する次第です。

荒井氏は労働問題がご専門ですが、様々な分野で社会貢献にご尽力されました。とくに、熊

本県地方最適賃金審議会会長、熊本県雇用環境整備事業審査委員会委員長、熊本県職業能力開発審議会会長などもお勤めになり、最近ではくまもと県民カレッジと生涯学習推進センターの活動をつうじて、文部科学省より地域における生涯学習振興に功績があったとして社会教育功労賞の表彰を受けられました。

ご退職後も本学での特任教授をお引き受けいただくなど、引き続きいろんなお仕事を快くお引き受けいただいております。今後とも本学のために、また、地域のためにご尽力いただければ幸いです。最後になりますが、ご健康にはくれぐれもご留意されてご活躍されることを祈念いたします。